



モデル実験の様子

気象庁本庁で初の緊急地震速報モデル実験。 採用されたのは明星電気のQCAST®シリーズです！

今年9月頃からの緊急地震速報の一般提供にむけて、気象庁は4月23日から東京・千代田区大手町にある気象庁本庁でモデル実験を開始しました。緊急地震速報を館内に伝達するシステムとして選ばれたのは、明星電気のQCAST®警報ユニットです。

都内23区内の行政機関や事業所が主体的に行う初のモデル実験であり、気象庁本庁すべてのフロアを対象にしています。QCAST®警報ユニットで緊急地震速報からの推定が震度3以上の場合、連動した館内放送が自動的に起動し、落ち着いて行動するようアナウンスが放送されます。

第一回目となった4月23日の訓練では、来庁者向けに緊急地震速報が伝えられることについてのポスターが掲示されたほか、職員はあらかじめ決められた行動マニュアルに従って、身の安全を図る訓練を実施しました。気象庁本庁では毎月1回訓練を実施し、来庁者である一般市民への緊急地震速報の周知や広報活動を活性化させていくとのことでした。



計測震度計 設置例

～ 相次ぐ地震災害 ～

各地の地震防災に明星電気の製品が役立っています！

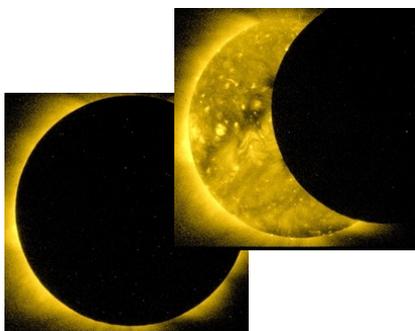
3月25日の能登半島地震や4月15日の三重県北部地震。これまで地震に対する危機感の薄かった地域でも地震活動が活発化し、専門家の間では活動期に突入したといわれ、地震防災対策はもはや待ったなしの状況です。

今回の地震においても、気象庁によって全国約200箇所に展開されたナウキャスト地震情報対応計測震度計は正常に緊急地震速報を発信したほか、近県に設置している自治体管理の計測震度計、企業が設置した震度計など、いずれも正常に動作し、地震災害の早期警戒や初期活動の迅速化に役立ちました。

三重県の大手電機メーカー事業所では、緊急地震速報対応QCAST®シリーズ製品の導入を進めており、東海・東南海地震への備えを着実に実行するために、ナウキャスト計測震度計との組合せシステムも導入を検討しています。

一方、富山県の大手事務機器メーカー事業所では、地震の早期警戒に有効なナウキャスト計測震度計を設置し、いち早く揺れの到達を知り地震防災活動を実施することとしています。

明星電気は今後も企業の事業継続や減災に有効な地震防災ソリューションを提供し、「安心・安全な社会」へ貢献し続けてまいります。



皆既日食画像 提供:JAXA

「ひので」衛星の観測した皆既日食

太陽観測衛星「ひので」は日本時間 2007年3月19日11時55分(日本時間)に皆既日食を観測しました。「ひので」には、明星電気が開発に参画したX線望遠鏡(X-Ray Telescope:XRT)が搭載されており、XRTは約1秒角の高解像度を有し、太陽のコロナの構造やそのダイナミックな変動を捉える事を目的としています。この日の日食は、地上では最大食分80%の部分日食ですが、地上680kmを周回する「ひので」衛星軌道は皆既帯に入り、その観測に成功したものです。

FROM UNDERWATER TO OUTERSPACE

明星電気は先端技術を活かし、～水中から宇宙まで～をテーマに

人と社会の豊かな未来づくりを目指す世界の総合環境観測システムメーカーです。